

感染症発生動向調査委員会報告 6月

《今月のトピックス》

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が多い状況が続いています。
- 夏季に流行する感染症（腸管出血性大腸菌感染症、咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナ等）が増加傾向です。

全数把握の対象

【6月期に報告された全数把握疾患】

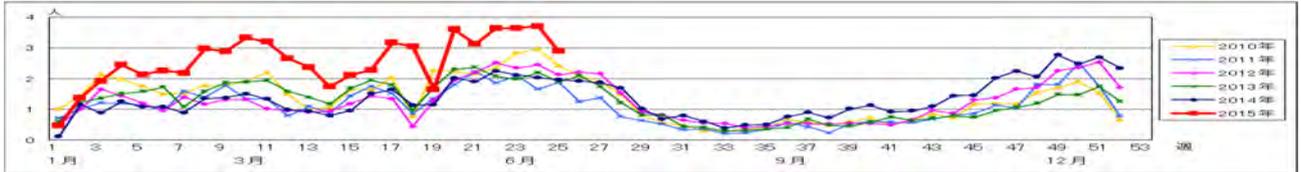
腸管出血性大腸菌感染症	6件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
パラチフス	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
レジオネラ症	7件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	4件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件	風しん	1件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件		

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:6件(O157VT1VT2 3件、O26VT1 2件、O121VT2 1件)の報告がありました。感染原因が特定されたものはありませんでしたが、家族内感染例がありました。家庭内での2次感染予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。本疾患はこれから夏にかけて例年報告数が増加するため注意が必要です。
- 2 **パラチフス**:3件の報告がありました。すべて海外(ミャンマー(ヤンゴン)およびインド(ムンバイ))での経口感染が推定されています。
- 3 **レジオネラ症**:肺炎型6件、ポンティアック型1件の報告がありました。明確な感染経路等は不明です。
- 4 **アメーバ赤痢**:腸管アメーバ症3件、腸管外アメーバ症1件の報告がありました。すべて国内での感染で、そのうち2件は異性間性的接触、もう1件は同性間性的接触、残るもう1件は経口感染が推定されています。
- 5 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:90歳代女性の報告が1件ありました。創傷感染が推定されています。
- 6 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:無症状病原体保有者2件、AIDS1件の報告がありました。すべて国内での同性間性的接触による感染でした。
- 7 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:70歳代の報告が1件ありました。予防接種歴はありませんでした。
- 8 **侵襲性肺炎球菌感染症**:5件(70歳代1件、60歳代1件、40歳代1件、30歳代1件、幼児1件)の報告がありました。そのうち幼児では予防接種歴(13価4回)がありましたが、成人例ではすべて予防接種歴が確認できませんでした。
- 9 **水痘(入院例に限る)**:30歳代(予防接種歴不明)の臨床診断例の届出が1件ありました。
- 10 **梅毒**:早期顕症梅毒Ⅱ期が3件、早期顕症梅毒Ⅰ期が1件の報告がありました。すべて国内での性的接触による感染が推定されており、異性間が2件、同性間が1件、不明1件でした。梅毒は全国的に増加しており、厚生労働省では注意喚起のために「[梅毒に関するQ&A](#)」をホームページに掲載しています。
- 11 **風しん**:30歳代男性1件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。[先天性風しん症候群](#)予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。横浜市では、①妊娠を希望されている女性(妊娠中は接種できません)、②妊娠を希望されている女性のパートナー(婚姻関係は問いません)、③妊婦のパートナー(婚姻関係は問いません)、を対象に風しんの予防接種と抗体検査を実施しています。詳しくは[横浜市保健所ホームページ](#)をご参照ください。

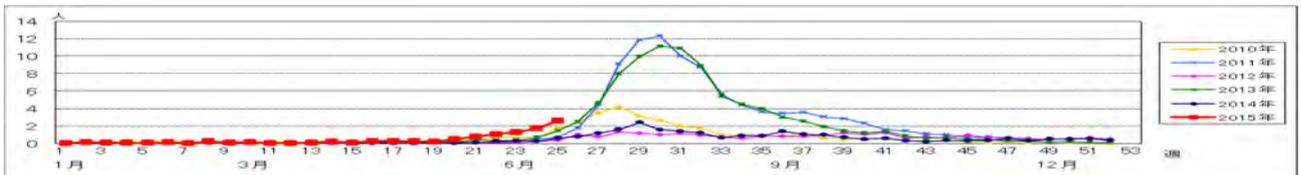
定点把握の対象

平成27年 週一月日対応表	
第22週	5月25日～5月31日
第23週	6月 1日～6月 7日
第24週	6月 8日～6月14日
第25週	6月15日～6月21日

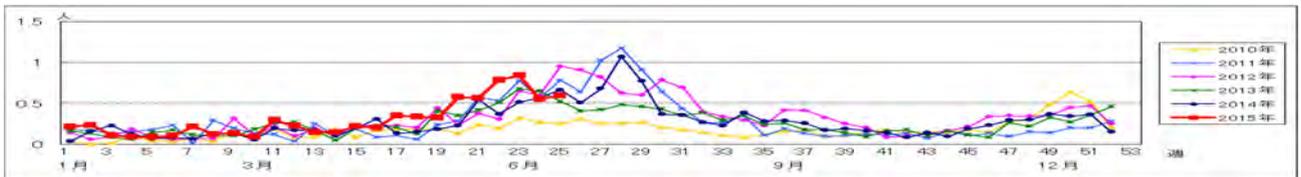
- 1 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:第25週は市全体で定点あたり2.90と、前週に比べてやや減少しましたが、今シーズンは例年に比べて報告が多い状態が継続しています。直近5週間の集計では、4～7歳が報告の57.0%を占めています。区別では都筑区8.67などと、報告が特に多い区も見られます。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱、急性糸球体腎炎などの非化膿性疾患を生ずることもあり、注意が必要です。



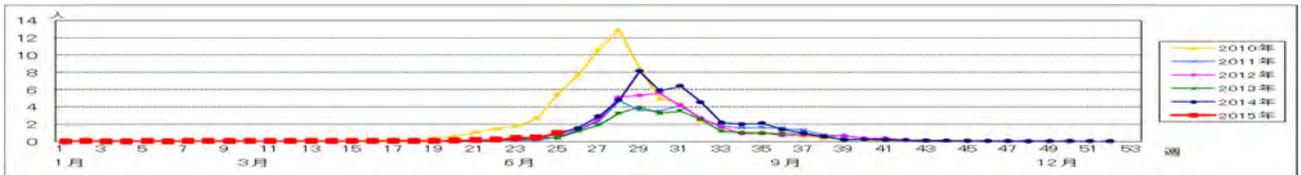
- 2 **手足口病**:第25週は市全体で定点あたり2.62と、徐々に報告が増加しています。区別では旭区6.60、鶴見区6.00などと報告が多い区も見られます。全国的には第24週で徳島県13.83、香川県8.50、鳥取県6.79と西日本で報告が多くなっています。例年これからの時期に流行する疾患であり、注意が必要です。



- 3 **咽頭結膜熱**:第25週は市全体で定点あたり0.59と、第23週0.84からは減少しましたが、例年並みの流行期を迎えています。例年本市では7月頃まで流行が続くことが多いので、もうしばらく注意が必要です。プールを介した場合の感染経路は、汚染した水から結膜への直接侵入と考えられています。また、プールでのアウトブレイクの調査結果からは、タオルを共用したことが感染のリスクを高めたとの報告もあります。それ以外では通常飛沫感染、あるいは手指を介した接触感染であり、結膜あるいは上気道からの感染です。



- 4 **ヘルパンギーナ**:第25週は市全体で定点あたり0.95と、やや増加傾向です。現在のところ、例年と同様の増加傾向を示しています。これからのさらなる増加が予想されるため、注意が必要です。



- 5 **性感染症**:5月は、性器クラミジア感染症は男性が19件、女性が14件でした。性器ヘルペス感染症は男性が10件、女性が15件です。尖圭コンジローマは男性4件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が16件、女性が0件でした。
- 6 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は第22週0.75、第23週0.25、第24週1.25、第25週0.00となっています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は、第22週0.25、第23週0.25、第24週0.25、第25週0.00となっています。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。
- 7 **基幹定点月報**:5月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症12件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症1件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

<ウイルス検査>

6月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点50件、基幹定点7件、眼科定点4件で、定点外医療機関からは1件でした。

7月9日現在、ウイルス分離8株と各種ウイルス遺伝子34件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(6月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ ^{*1}	アデノ感染症 ^{*2}	手足口病	流行性角結膜炎	流行性耳下腺炎
アデノ NT	5	2					
アデノ 4型				2			
インフルエンザ B/ビクトリア			1				
インフルエンザ B/山形	1						
パラインフルエンザ 1型		1					
パラインフルエンザ 2型	1						
パラインフルエンザ 3型	9	3					
パラインフルエンザ 4型		1					
RS	5	1					
ヒトコロナ (HCoV 229E or NL63, HCoV OC43)	1						
ムンプス							2
単純ヘルペス 1型						1	
ライノ	1	2					
ボカ	2						
コクサッキー A16型					1		
合計	1 24	10	1	2	1	1	2

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数、NT:未同定、*1 疑いを含む、*2 咽頭結膜熱を含む

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

6月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から26件、その他が23件で、腸管出血性大腸菌(O26:H11、O121:H19、O157:H7)が12件、パラチフスA菌が7件、サルモネラが13件検出されました。パラチフスA菌はミャンマー渡航者から5件、インド渡航者から2件検出されました。また、サルモネラはフィリピン渡航者から1件、インドネシア渡航者から1件、あとの11件は国内発生でした。

その他の感染症は小児科から6件、その他が24件でした。*Legionella pneumophila*の血清型は1群、インフルエンザ菌は全て血清型別不能でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(6月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	6月			2015年1月～6月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌						1
腸管出血性大腸菌		1	11		1	18
腸管毒素原性大腸菌					1	
チフス菌						1
パラチフスA菌		6	1		6	5
サルモネラ		12	1		45	2
カンピロバクター						2
コレラ菌						1
不検出	0	7	10	1	20	13

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	6月			2015年1月～6月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌				3		4
T1						
T4				4		
T6	1			1		
T12				1		
T28				2		3
型別不能	4			15		2
G群溶血性レンサ球菌						4
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌			8		7	32
バンコマイシン耐性腸球菌					1	1
<i>Legionella pneumophila</i>			1			3
インフルエンザ菌			6			7
肺炎球菌			7		1	60
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
結核菌						132
百日咳					1	1
その他					9	11
不検出	1	0	2	3	2	25

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリブシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】